我が街、平戸の税収を考える

佐世保北中学校１年　　平賀　士圓

僕の将来の夢は平戸市役所の職員になって平戸市をよりよくするというものです。そのため僕は今、将来に役立つ情報として平戸市の課題や、解決した課題をどのような方法で解決したのかなどを徹底的に調べています。税についても興味があったのでそれをもとにこの作文を書きたいと思います。

僕が特に興味を持ったのが平戸市の税の収入についてです。収入は令和二年で約二五九億円でした。二五九億円の中で平戸市の自主財源、いわゆる平戸市が自ら確保しているお金はなんと全体の約二五％の約六五億円しかないのです。残りの七五％は国からもらう地方交付税、県からもらう県支出金などでまかなっています。これはかなり深刻な問題だと僕は考えます。なぜなら、地方交付税などの依存財源は条件付きでもらうのがほとんどだからです。例えば、国から一億円の学校教育用のタブレット端末の地方交付税が送られてきたとします。そしてこの一億円はタブレット端末以外の用途には使えないのです。とゆうことは平戸市が自由に使えるお金は、二五九億円の収入の中でもたったの六五億円だけなのです。だから例えば市民から「公衆トイレをもっと多く建設してほしい」などの要望が来たら簡単に受け入れることはできないのです。また平戸市はどんどん人口が減っているので市民税の納入額も減ります。すなわちこれからもどんどんと地方交付税に依存してしまうと予想されるのです。

これを解決する方法は二つあると思います。一つ目は平戸市の人口を増やすという解決方法です。市の人口が増えれば当然市民が市に納める市民税も増えます。しかし、人口を増やすということはかなり難しく僕も完璧な答えは出せていません。けれども二つ目の解決方法が平戸市を救うカギになると僕は考えます。それはふるさと納税の寄附額を上げるという方法です。平戸市は二〇一四年にふるさと納税が全国一位になりました。その年の納税額は約一四億円、その翌年は全国七位で市の中では最高の二六億円でした。僕は最初、「一位だった年の返礼品をまた使えばいい」と思いました。しかし、ほかの市町村が平戸に負けないようにと自分の町の特産品を最大限にアピールしているので人気が自然と落ちてしまうのです。だから使い回しはできません。そこで僕は、平戸でしか味わえないもの、すなわち自然体験活動をふるさと納税の対象にすればいいと思います。例えば「沢登り招待券＋キャンプ場宿泊券」などと気軽に平戸に旅行に来ることができるようなものを返礼品にしたほうが良いと僕は考えます。

ここまで話してきたのはあくまでぼくの意見です。この中にも何かしらの欠点などがあるかもしれません。このような市全体に関することは一人で解決するのは難しいのです。みんなで話して行動に移す、それが一番大事だと僕は考えます。